

***DENSO***

Crafting the Core

# 2019年3月期 決算説明会

2019年4月26日  
株式会社デンソー



## 2019年3月期 決算のポイント

1. 売上収益は、欧州及び中国の市場の減速感があったものの、全地域での車両生産の増加や拡販、および前期期中に子会社化したデンソーテンの影響等により、増収  
営業利益は、将来の成長領域への投資の加速や、前期に発生した一過性の収益がなくなったことによる影響、第4四半期での品質費用の引当により、減益
2. 来期は安全製品の拡販や車両の電動化が進むこと等により、車両生産台数の伸びを上回り、増収増益

# 2019年3月期 連結決算

( ) 内は売上収益比

【単位：億円、%】

		19/3期実績		18/3期実績		増減額	増減率
<b>売上収益</b>		<b>53,628</b>		51,083		+2,545	+5.0%
<b>営業利益</b>		(5.9%)	<b>3,162</b>	(8.1%)	4,127	△ 965	△23.4%
金融収支等(※1)		<b>398</b>		372		+26	
<b>税引前利益</b>		(6.6%)	<b>3,560</b>	(8.8%)	4,499	△ 939	△20.9%
<b>当期利益</b> (※2)		(4.7%)	<b>2,545</b>	(6.3%)	3,206	△ 660	△20.6%
前提条件	為替レート	1ドル	111円	1ドル	111円	0円 円安	
		11-0	128円	11-0	130円	2円 円高	
	国内車両生産		943万台		937万台	+5万台	+0.6%
	海外日系車生産 (内、北米)		2,011万台 (591万台)		2,015万台 (603万台)	△3万台 (△12万台)	△0.2% (△2.0%)

(※1) 金融収益、金融費用、為替差損益、持分法による投資利益 (※2) 親会社の所有者に帰属する当期利益

**DENSO**  
Crafting the Core

2019年3月期 決算説明会/ 2019.4.26  
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

2/12

## <連結決算概要>

### 売上収益

5兆3,628億円 (前年比 +2,545億円、5.0%の増収)

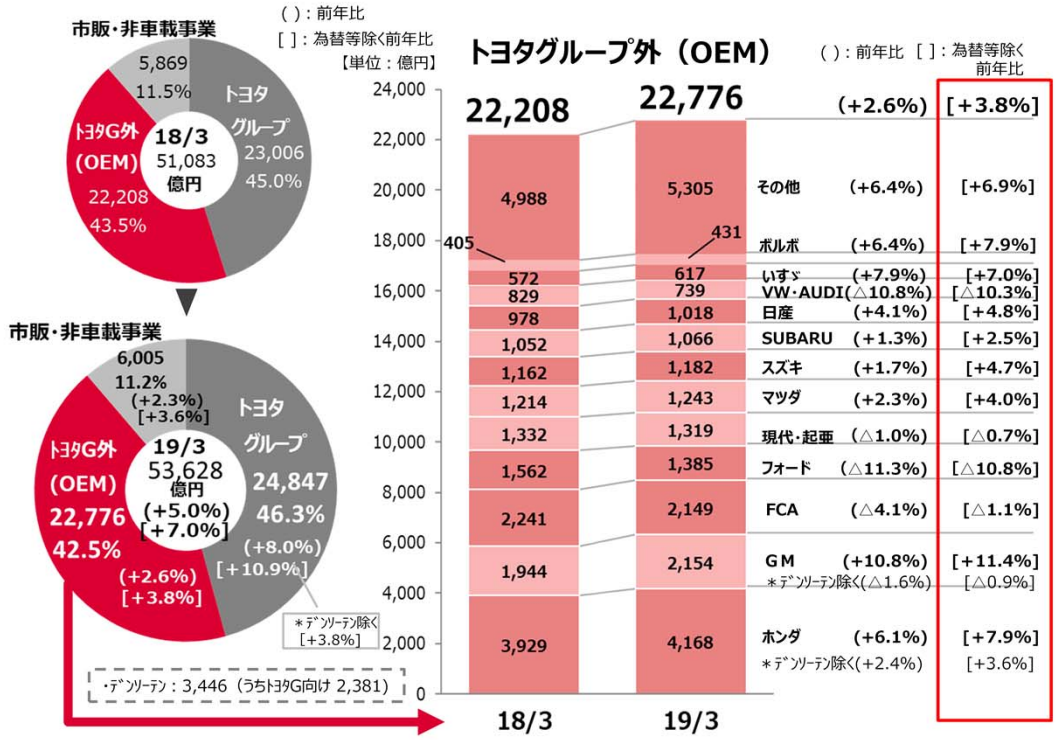
### 営業利益

3,162億円 (前年比 -965億円、23.4%の減益)

### 当期利益

2,545億円 (前年比 -660億円、20.6%の減益)

# 2019年3月期 売上収益（得意先別）



**DENSO**  
Crafting the Core

2019年3月期 決算説明会 / 2019.4.26  
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

3/12

## <得意先別売上（現地通貨ベース）>

### トヨタグループ向け

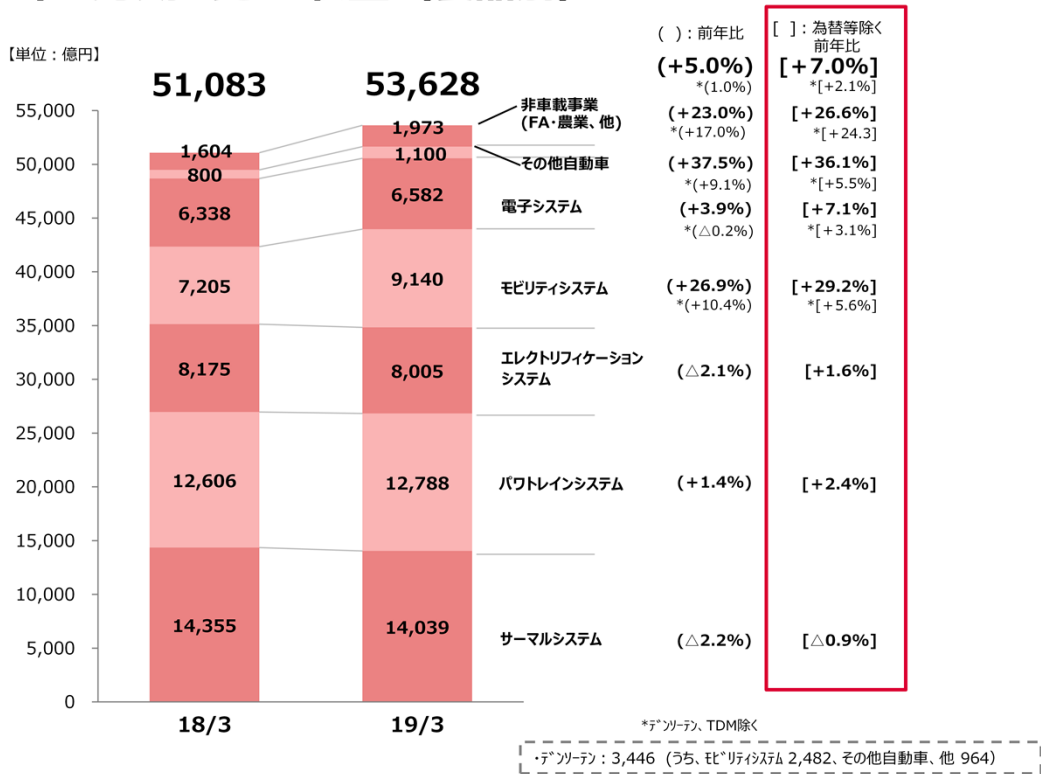
デンソーテンの影響や中国での車両生産、  
日本での予防安全製品の装着率拡大により、10.9%の増収

### トヨタグループを除くカーメーカー向け

全体で3.8%の増収（内訳は下記の通り）

- ホンダ : 北米でのディスプレイ製品の拡販  
日本での対象車両生産の増加
- Ford : 中国での対象車両生産の減少
- VW・AUDI : 欧州での対象車両生産の減少

# 2019年3月期 売上収益（製品別）



2019年3月期 決算説明会/ 2019.4.26  
 © DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

4/12

## <製品別売上（現地通貨ベース）>

### パワートレインシステム製品

アジア地域や日本での車両生産増加により、増収

### エレクトリフィケーションシステム製品

トヨタ向けパワーコントロールユニットの生産増加により、増収

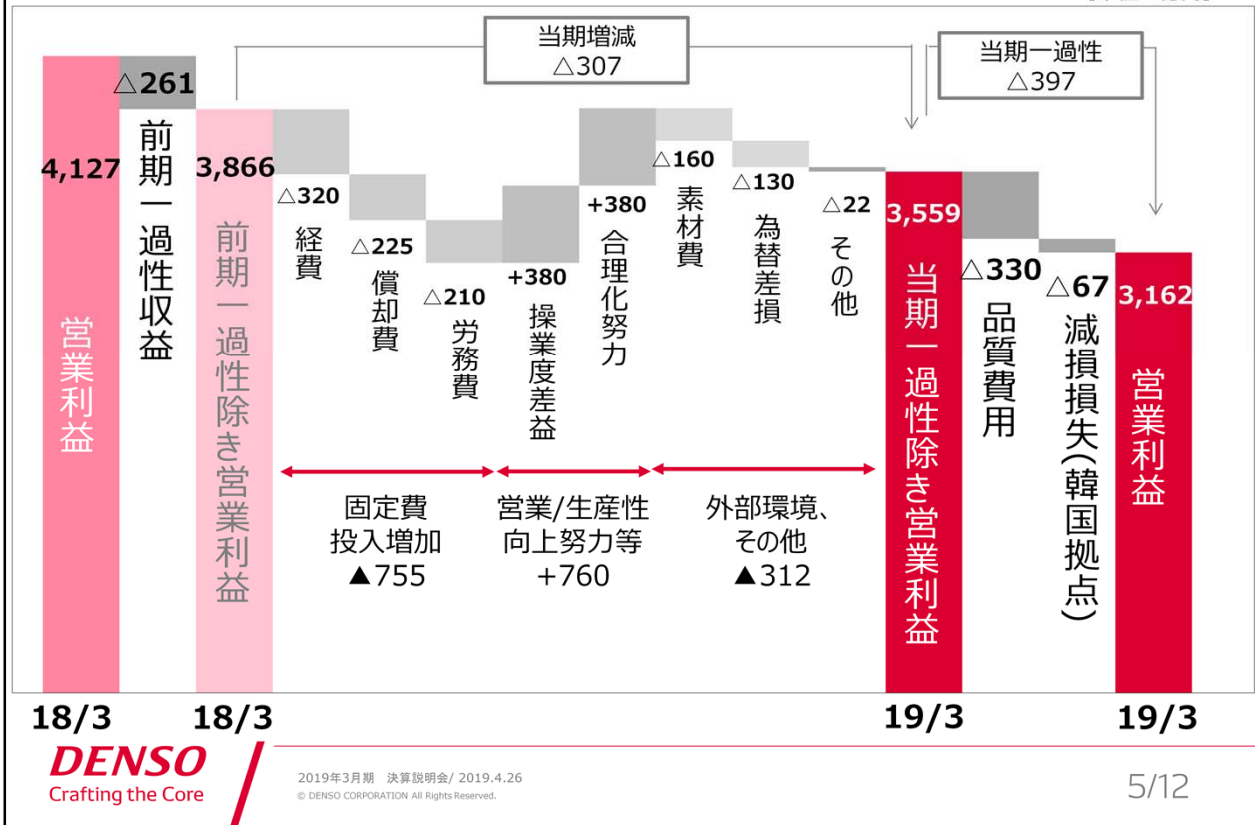
### モビリティシステム製品

日本での予防安全製品の装着率拡大、  
 日本及び北米でのディスプレイ製品の拡販により、増収

なお、一昨年11月のデッソ-テックの子会社化、  
 一昨年7月のTDMエルの子会社化に伴い、  
 電子システム製品や非車載事業なども増収

# 2019年3月期 営業利益増減要因（前年比）

【単位：億円】



## < 営業利益の増減要因 >

18年3月期からの主な増減要因は下記の通り

前期の一過性収益がなくなったことによる影響▲261  
(前期発生引当金の取り崩し益や株式の評価益等)

### 固定費投入増加

経費 ▲320億円、償却費▲225億円：将来の成長領域へ向けた投入  
 労務費▲210億円：主に日本での昇給や賞与の増加

### 営業/生産性向上努力等

操業度差益 +380億円：対象車両生産の増加や拡販  
 合理化努力 +380億円：コストダウンや工場IoT化による生産性向上

### 外部環境、その他

素材費▲160億円：素材費の高騰（樹脂、銅、アルミ等）

### 当期一過性費用

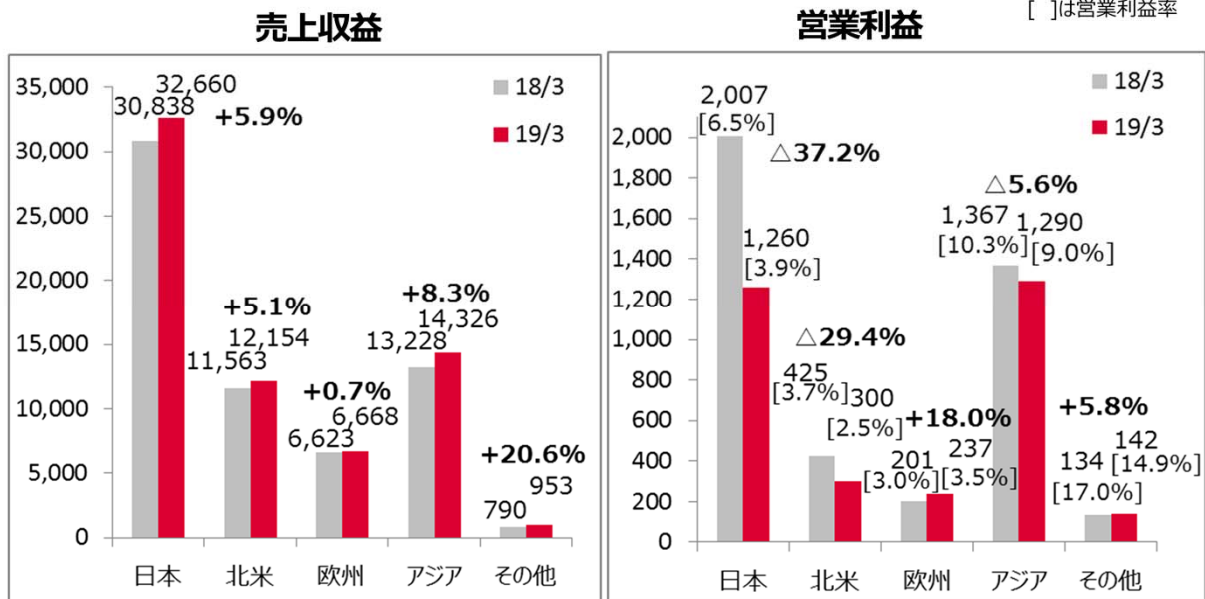
品質費用 ▲330億円：将来の発生費用に備え、引当金を計上  
 減損損失 ▲67億円：主に韓国拠点での固定資産の減損

以上により、19年3月期における営業利益は、3,162億円。

## 2019年3月期 所在地別セグメント情報（前年比）

### 現地通貨ベース

【単位：億円】  
[ ]は営業利益率



**DENSO**  
Crafting the Core

2019年3月期 決算説明会 / 2019.4.26  
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

6/12

### < 地域別売上・営業利益（現地通貨ベース） >

#### 日本

-売上収益（前年度比+5.9%）  
予防安全製品の装着率拡大、  
デンソーテン子会社化の影響により、増収

-営業利益（前年度比▲37.2%）  
対象車両生産の増加や合理化努力があったものの、  
将来の成長領域へ向けた投入による費用の増加に加え、  
前期の一過性収益がなくなったことによる影響、  
当年度に発生した品質費用により、減益

#### 日本以外

-売上収益  
車両生産の増加や拡販により、全ての地域で増収

-営業利益  
北米は、合理化努力はあるものの、先行開発費用の増加や、  
生産能力増強のための投資などにより減益  
欧州は、市場の減億影響あるも生産性向上といった合理化により増益  
アジアでは、アセアン市場の拡大により、中国市場の減速を挽回し、  
操業度益を計上するも、韓国拠点の減損損失により減益

## 【公表差】19/3期実績 3Q時点公表数値との差異

	3Q公表	実績	差
営業利益	4,127	4,127	
前期一過性収益	-261	-261	±0
前期一過性除き営業利益	3,866	3,866	-
経費	-320	-320	±0
償却費	-260	-225	+35
労務費	-190	-210	▲20
素材費	-150	-160	▲10
為替差損	-150	-130	+20
操業度差益	430	380	▲50
合理化努力	400	380	▲20
その他	174(※)	-22	▲196
一過性除き営業利益	3,985	3,744	▲241
品質費用	0	-330	▲330
減損損失	-	-67	▲67
<b>営業利益</b>	<b>+3,800</b>	<b>+3,162</b>	<b>-638</b>

※一過性前の「その他+98」と後ろの「その他+76」を集約

### 【公表差の主な要因】

主として日本地域での売上減  
(一部OEM操業停止等)  
による影響

▲100:北米での医療費負担増加、  
採算改善の未達成等  
▲30 :日本地域での新製品  
投入遅れの影響等

日本地域での品質引当て計上

韓国拠点の事業減損

### < 3Q公表数値との差額 >

**操業度** 一部OEMの操業停止による、日本地域での売上減少による影響  
⇒▲50

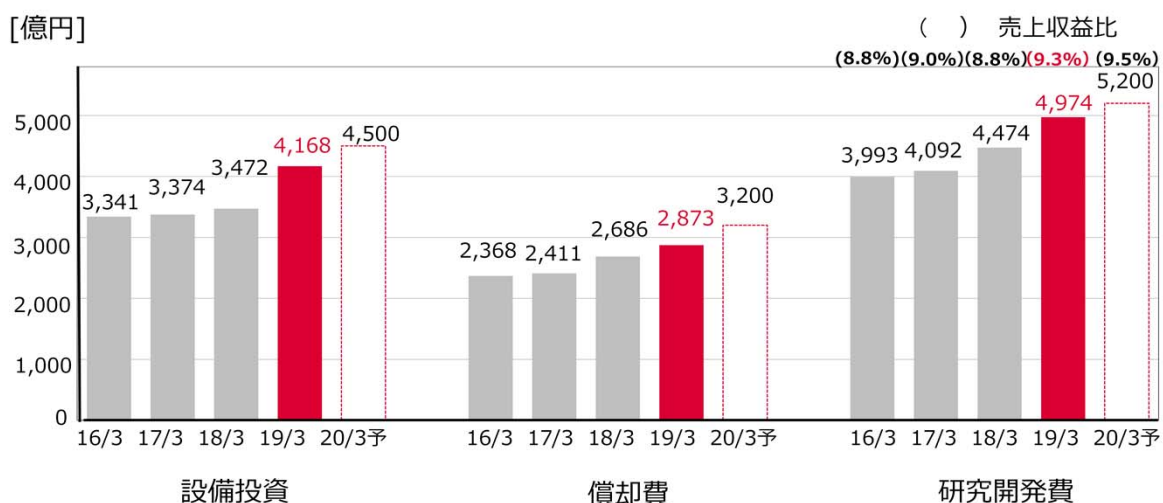
**その他** 北米地域での想定以上のコスト増（医療費負担）、  
および、サプライチェーンの再構築やCASEへの備えのため、  
予定していた改善案件に着手できなかった影響による採算改善の未達  
⇒▲100  
日本地域での新製品投入の後ろ倒しによる採算改善の未達  
⇒▲30

**品質費用** 第4四半期での新規引き当て計上、費用軽減交渉の長期化による影響  
⇒▲330

**減損損失** 韓国拠点の採算悪化に伴い、固定資産の減損を実施  
⇒▲67



## 設備投資・償却費・研究開発費の推移



**DENSO**  
Crafting the Core

2019年3月期 決算説明会 / 2019.4.26  
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

8/12

### <設備投資>

設備投資の実績は、4,168億円。

来期予想は、4,500億円。

電動化関連製品のグローバル展開や、先進安全製品の拡販対応に加え、工場のIoT化などの生産基盤強化を引き続き実施するも、投資については、規律を持ってコントロールしていく。

自動車の電動化領域における開発、生産体制を強化するため、デンソーグループ全体で2018年度から2020年度末までの3カ年で約1,800億円の投資を行っていく予定であり、その関連の投資も含まれている。

### <研究開発費>

研究開発費の実績は4,974億円。

来期予想は、5,200億円。

駆動モジュールや統合制御ECUの新会社設立を含む、電動化、自動運転領域を一層強化。

## 2020年3月期 通期予想

( )内は売上収益比

【単位：億円】

		20/3期予想		19/3期実績		増減額	増減率
<b>売上収益</b>		<b>55,000</b>		53,628		+1,372	+2.6%
<b>営業利益</b>		(6.9%) <b>3,800</b>		(5.9%) 3,162		+638	+20.2%
金融収支等 <sup>(※1)</sup>		490		398		92	
<b>税引前利益</b>		(7.8%) <b>4,290</b>		(6.6%) 3,560		+730	+20.5%
<b>当期利益<sup>(※2)</sup></b>		(5.5%) <b>3,050</b>		(4.7%) 2,545		+505	+19.8%
前提条件	為替レート	1ドル	110円	1ドル	111円	1円 円高	
		11-0	125円	11-0	128円	3円 円高	
	国内車両生産		961万台		943万台	+18万台	+1.9%
	海外日系車生産		2,046万台		2,011万台	+35万台	+1.7%
	(内、北米)		(583万台)		(591万台)	(△8万台)	(△1.3%)

(※1) 金融収益、金融費用、為替差損益、持分法による投資利益 (※2) 親会社の所有者に帰属する当期利益

**DENSO**  
Crafting the Core

2019年3月期 決算説明会/ 2019.4.26  
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

9/12

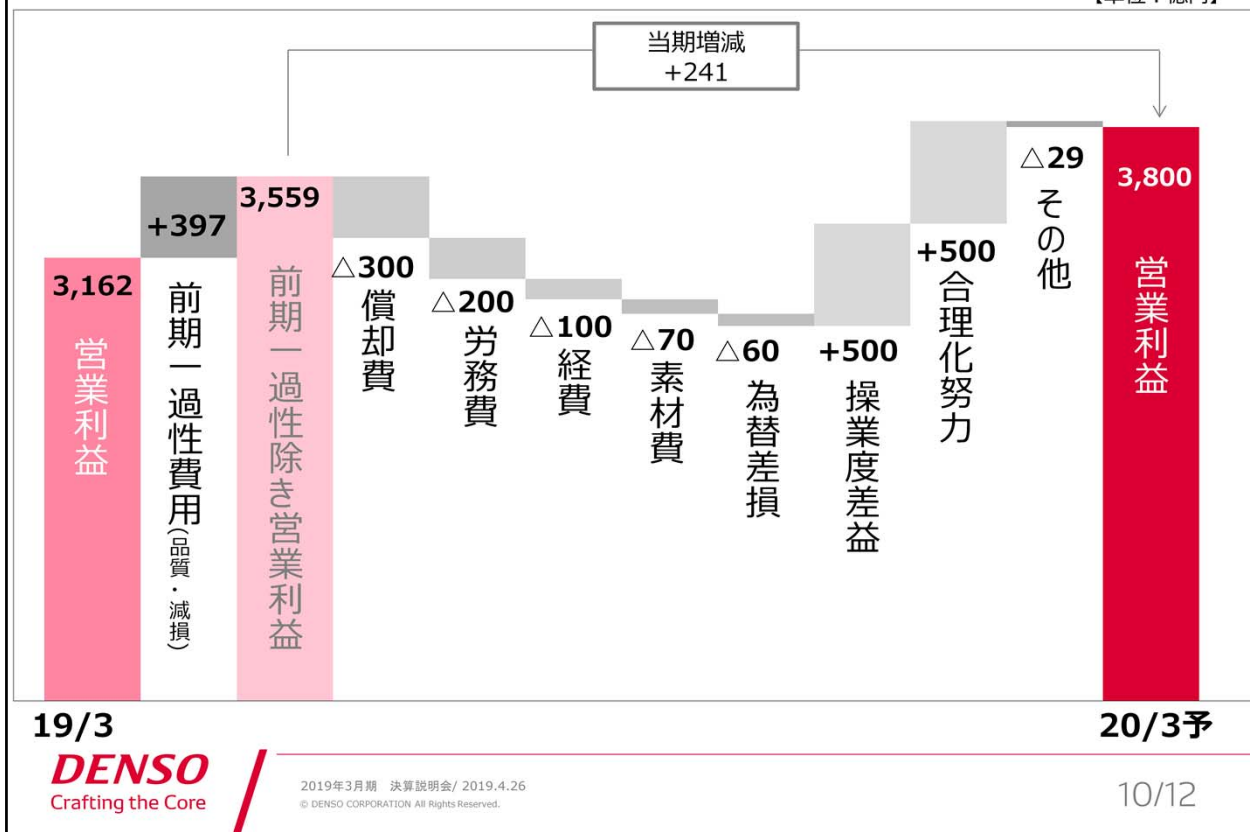
### <次年度予想>

車両の電動化や安全製品の拡販が一層進むことにより、

- ・売上収益：5兆5,000億円
- ・営業利益：3,800億円
- ・前提レートは、  
ドル110円、ユーロ125円

## 2020年3月期通期予想 営業利益増減要因（前年比）

【単位：億円】



### <次年度営業利益増減要因予想>

18年度の一過性費用397億円を戻した  
3,559億円を出発点とすると、

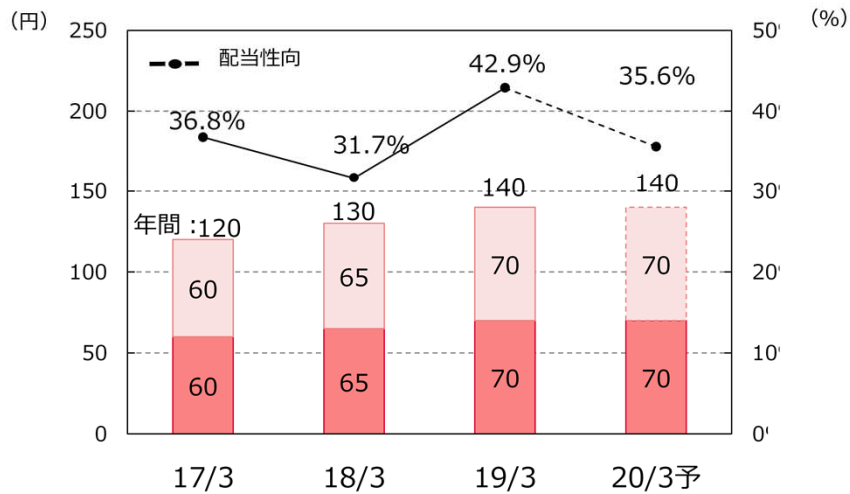
償却費 ▲300億円、経費▲100億円：将来の成長領域へ向けた投入  
労務費▲200億円：R&D人員の拡充や昇給による労務費増

といったマイナス要因を操業度差益、合理化努力で挽回し、  
営業利益は+638億円の3,800億円

# 株主還元

**19/3期： 配当 公表予想通り 140円**

**20/3期： 配当 19/3期と同じ 140円を予定**



## <株主還元>

- ・実績140円（前年度+10円）
- ・来期140円を予定

今後とも、企業価値の向上に努めるとともに、一層の株主還元を図ってまいります。

## 直近の技術開発の取り組みについて

- トヨタ自動車から電子部品事業を集約  
電動化領域の開発・生産体制の強化に向け1,800億円を投資



電動開発センター（2020年5月開設）

- Uber Advanced Technologies Groupに出資  
自動運転ライドシェアサービスの開発と展開へ向け協業
- 電動化、自動運転の普及を目指す新会社  
「BluE Nexus」、「J-QuAD DYNAMICS」を、19年4月1日に設立

**仲間づくりの推進と、積極的なR&D投資、設備投資により競争力を強化**

**DENSO**  
Crafting the Core

2019年3月期 決算説明会/ 2019.4.26  
© DENSO CORPORATION All Rights Reserved.

12/12

### <直近の技術開発の取り組み>

電動化領域では、20年4月にトヨタ自動車の電子部品事業を当社に集約することで正式に決定。

今後は、安城製作所とトヨタの広瀬工場を電動化のグローバルマザーとして開発・生産体制の強化を行い、グローバルな供給体制を構築。

自動運転領域では、米国のUber Advanced Technologies Groupに出資し、次世代モビリティ向けの自動運転技術開発をすることで合意。  
ウーバー社、トヨタ、デンソーが連携することで、高品質、高信頼な次世代自動運転キットの開発を加速し、LV4のMaas車両の実現に貢献。

電動化、自動運転それぞれの領域において、トヨタグループが持つ技術や知見を結集した新たな合併会社を4月1日に設立「BluE Nexus（ブルーイーネクス）」  
⇒電動車両の駆動に不可欠な、トランスアクスル、モータージェネレータ、インバータのキーコンポーネントが一つのパッケージになった駆動モジュールの開発・販売

「J-QuAD DYNAMICS(ジェイクウッドダイナミクス)」  
⇒ソフトウェアの開発を加速し、付加価値の高い車両統合制御システムを実現

***DENSO***

Crafting the Core

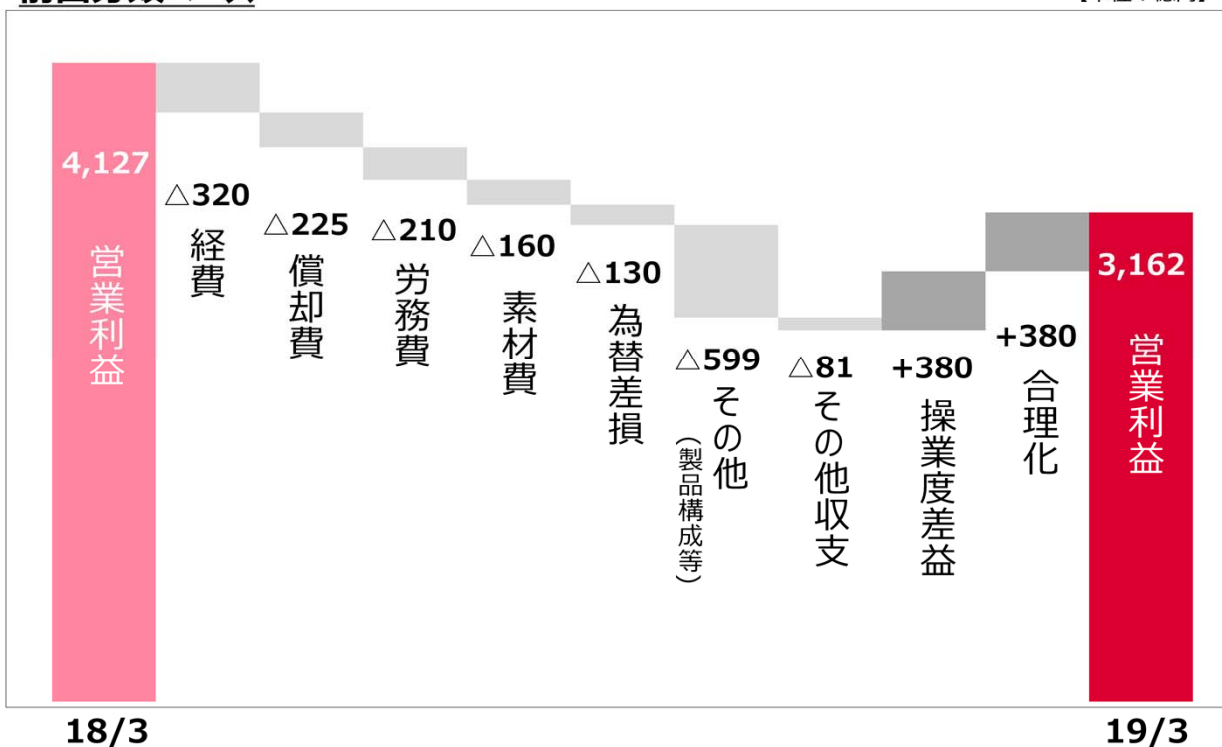
## 参考資料

- ・2019年3月期 営業利益増減要因（前年比）
- ・前提となる為替レート／車両生産台数
- ・得意先別売上
- ・製品別売上
- ・所在地セグメント情報（円貨ベース）
- ・地域別 設備投資・償却費・研究開発費

# 2019年3月期 営業利益増減要因（前年比）

前回分類ベース

【単位：億円】





## 前提となる為替レート／車両生産台数

		上期			下期			19/3通期			20/3通期	
		前年実績	当年実績	前年比	前年実績	当年実績	前年比	前年実績	当年実績	前年比	予想	前年比
為替レート (円)	USD	111	110	1円 円高	111	112	1円 円安	111	111	0円 円安	110	1円 円高
	EUR	126	130	4円 円安	133	127	6円 円高	130	128	2円 円高	125	3円 円高
1円変動の 利益影響額 (億円)	USD							25	25	0	25	0
	EUR							10	10	0	10	0
日系車両生産 台数 (万台)	国内	454	447	△ 1%	484	495	+ 2%	937	943	+ 1%	961	+ 2%
	北米	301	290	△ 4%	302	301	△ 0%	603	591	△ 2%	583	△ 1%
	海外日系車	989	1,020	+ 3%	1,026	991	△ 3%	2,015	2,011	△ 0%	2,046	+ 2%

# 得意先別売上

【単位：億円,%】

区分	19/3期実績 (累計)		18/3期実績 (累計)		増減	増減率	為替等除く 増減率
	金額	構成比	金額	構成比			
トヨタ	22,892	42.6	21,242	41.5	1,650	7.8	10.7
ダイハツ	1,281	2.4	1,160	2.3	121	10.4	13.4
日野自動車	674	1.3	603	1.2	71	11.8	11.9
<b>トヨタグループ計</b>	<b>24,847</b>	<b>46.3</b>	<b>23,006</b>	<b>45.0</b>	<b>1,841</b>	<b>8.0</b>	<b>10.9</b>
ホンダ	4,168	7.8	3,929	7.6	239	6.1	7.9
G M	2,154	4.0	1,944	3.8	210	10.8	11.4
F C A	2,149	4.0	2,241	4.4	△ 92	△ 4.1	△ 1.1
フォード	1,385	2.6	1,562	3.1	△ 177	△ 11.3	△ 10.8
現代・起亜	1,319	2.5	1,332	2.6	△ 13	△ 1.0	△ 0.7
マツダ	1,243	2.3	1,214	2.4	28	2.3	4.0
スズキ	1,182	2.2	1,162	2.3	20	1.7	4.7
S U B A R U	1,066	2.0	1,052	2.1	14	1.3	2.5
日産自動車	1,018	1.9	978	1.9	40	4.1	4.8
V W ・ A U D I	739	1.4	829	1.6	△ 89	△ 10.8	△ 10.3
三菱自動車	654	1.2	550	1.1	103	18.8	18.8
いすゞ	617	1.2	572	1.1	45	7.9	7.0
B M W	438	0.8	424	0.8	15	3.5	4.4
ボルボ	431	0.8	405	0.8	26	6.4	7.9
P S A	315	0.6	343	0.7	△ 28	△ 8.1	△ 7.5
ベンツ	294	0.5	345	0.7	△ 50	△ 14.6	△ 13.7
その他メーカー	3,602	6.7	3,326	6.5	276	8.3	8.9
<b>O E M 計</b>	<b>47,623</b>	<b>88.8</b>	<b>45,214</b>	<b>88.5</b>	<b>2,409</b>	<b>5.3</b>	<b>7.4</b>
※ 市販・非車載事業 ※	<b>6,005</b>	<b>11.2</b>	<b>5,869</b>	<b>11.5</b>	<b>136</b>	<b>2.3</b>	<b>3.6</b>
<b>合計</b>	<b>53,628</b>	<b>100.0</b>	<b>51,083</b>	<b>100.0</b>	<b>2,545</b>	<b>5.0</b>	<b>7.0</b>

※ OES(メーカー補給含む)、一般市販、新事業、設備売上等を含む

# 製品別売上

【単位：億円,%】

区分	19/3期 実績		18/3期 実績		増減	増減率	為替等除く 増減率
	金額	構成比	金額	構成比			
サーマルシステム	14,039	26.2	14,355	28.1	△ 316	△ 2.2	△ 0.9
パワトレインシステム	12,788	23.8	12,606	24.6	182	1.4	2.4
エレクトリフィケーションシステム	8,005	14.9	8,175	16.0	△ 170	△ 2.1	1.6
モビリティシステム	9,140	17.0	7,205	14.1	1,936	26.9	29.2
電子システム	6,582	12.4	6,338	12.5	244	3.9	7.1
その他 ※	1,100	2.0	800	1.6	300	37.5	36.1
<b>自動車分野計</b>	<b>51,654</b>	<b>96.3</b>	<b>49,479</b>	<b>96.9</b>	<b>2,176</b>	<b>4.4</b>	<b>6.4</b>
<b>非車載事業（FA・農業、他）計</b>	<b>1,973</b>	<b>3.7</b>	<b>1,604</b>	<b>3.1</b>	<b>369</b>	<b>23.0</b>	<b>26.6</b>
<b>合計</b>	<b>53,628</b>	<b>100.0</b>	<b>51,083</b>	<b>100.0</b>	<b>2,545</b>	<b>5.0</b>	<b>7.0</b>

※ 設備売上、補修品、子会社向け「プラットフォーム」製品等を含む

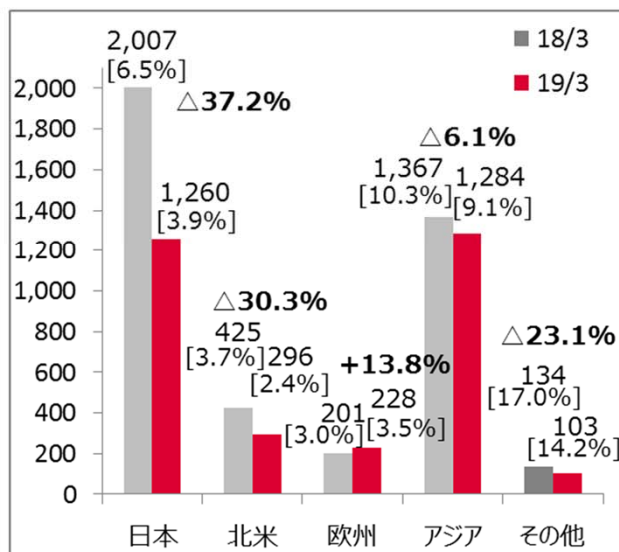
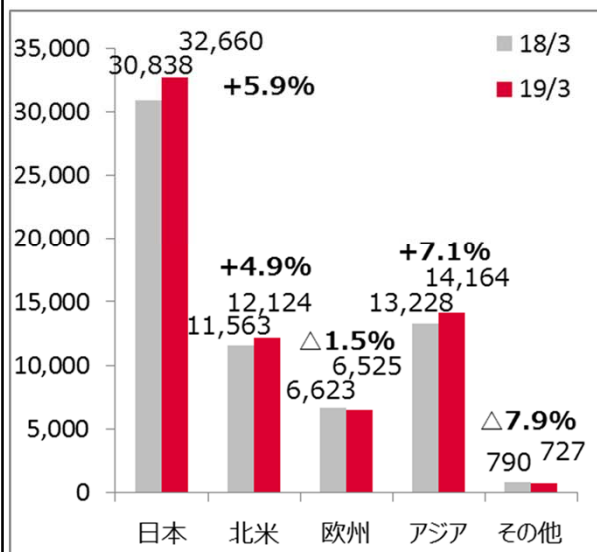
# 2019年3月期 所在地別セグメント情報（前年比）

円貨ベース

【単位：億円】  
[ ]は営業利益率

## 売上収益

## 営業利益



# 地域別 設備投資/償却費、研究開発費

【単位：億円】

		18/3期 実績	19/3期 実績	増減率	20/3期 予想	増減率
設備投資	日本	2,177	2,582	18.6%	2,615	1.3%
	北米	438	603	37.7%	600	▲0.5%
	欧州	308	255	▲17.2%	250	▲2.0%
	アジア	527	695	31.9%	1,000	43.9%
	その他	22	34	54.5%	35	2.9%
	合計	3,472	4,168	20.0%	4,500	8.0%
償却費	日本	1,547	1,686	9.0%	1,890	12.1%
	北米	324	368	13.6%	445	20.9%
	欧州	222	240	8.1%	260	8.3%
	アジア	564	557	▲1.2%	580	4.1%
	その他	28	21	▲25.0%	25	19.0%
	合計	2,686	2,873	7.0%	3,200	11.4%
研究開発費 (売上高比)		4,474 (8.8%)	4,974 (9.3%)	11.2%	5,200 (9.5%)	4.5%